

専業も！！
副業も！！
未経験者も歓迎！

広島広域都市圏
連携市町も対象！



広島市で 農業をはじめよう！



令和8年度 農業研修生 募集

専業・副業など目指す農業によって3つの研修から選べます。
(詳細は次ページ)

農地を所有していなくても就農できる制度となっています。

詳しい内容等は、お気軽にお問合せ下さい。

お申込み・お問合せ先

〒739-1751
広島市安佐北区深川8-30-12

(公財) 広島市農林水産振興センター
農業担い手育成課

✉ ninaite@haff.city.hiroshima.jp

☎ (082)842-4421



研修について

専業・副業など目指す農業によって3つの研修から選べます。

研修名	A “ひろしま活力農業” 経営者育成研修	B 広島市農業振興センター農業研修	
		① 生産販売農家 育成コース	② 栽培技術 基礎コース
研修内容	施設葉物野菜の生産を主とした農業経営者として独立するための栽培技術や肥料・農薬などの知識の外、農業簿記や労務管理など経営に関する基礎知識の習得	直売向け多品目野菜の栽培、出荷・販売技術と経営に関する知識の習得	直売向け多品目野菜の栽培、出荷・販売技術の習得
応募要件	1 年齢は18歳以上、原則就農時45歳未満であること(昭和58年3月2生まれから平成20年4月1生まれまで) 2 研修修了後、広島市内のあっせんする農地に野菜専作(施設野菜)で就農すること 3 就農までに広島市に居住すること 4 就農後、就農地域と協調した関係を築き地域活動に参画していく意思があること 5 申込書の確認事項に該当しないこと	1 募集対象市町に居住すること又は居住見込であること 2 募集対象市町に就農できる農地があること又は新たに農地を借りて就農を目指すこと 3 研修修了後、募集対象市町に就農し、生産した農産物を直売所等を通じて消費者に供給すること、若しくは供給を目指すこと 4 就農地等を適切に管理するとともに、就農地域と協調した活動をする事 5 申込書の確認事項に該当しないこと	
対象市町 ※1	広島市	広島市・竹原市・大竹市・廿日市市・安芸高田市・江田島市・府中町・熊野町・安芸太田町・世羅町・山口県和木町 (ただし、安芸高田市・江田島市・府中町は、就農できる農地がある方のみを対象とします。)	
研修期間等	令和8年4月～令和10年2月末	令和8年4月～令和9年3月末	
研修日	月曜日から金曜日※2 8:30～17:15	月曜日と金曜日(週2回) 9:00～15:00 (7～8月の期間は 6:30～12:00)	月曜日と水曜日 又は 水曜日と金曜日(週2回) 9:00～12:00
募集人数	若干名	20名以内	月水コース、水金コースとも各10名以内※3
研修費用	無料 (資格取得費用、実践研修での農機具費や雇用労賃等の自己負担あり)	無料 (小農具費等の自己負担あり)	
選考	・1次選考(書類審査) 令和7年12月上旬 ・2次選考(面接審査) 令和7年12月20日(土)	書類審査 申込書により応募要件等を確認し、合格者が募集人数を超えた場合には抽選により決定します。	
農業体験会	・農業体験会を下記の日程で開催しますので、応募に迷っている場合はご参加下さい。 令和7年10月11日(土)、10月21日(火)、11月1日(土)、11月20日(木) ・“ひろしま活力農業”経営者育成研修の応募者のみを対象とした農業体験会を開催します。 応募者の方はご参加下さい。日程は令和7年12月6日(土)です。		
その他	・研修施設の見学や研修、就農に関する相談は随時受け付けていますので、お気軽にお問合せ下さい。 ・研修受講に当たっては、各自傷害保険等への加入をお願いします。		

※1 本研修は広島広域都市圏における新規就農者育成事業の連携市町を対象としています。

※2 研修の内容によって変更の場合があります。

※3 コース毎の応募者に偏りが生じた場合、研修日の調整をさせていただく場合があります。

A “ひろしま活力農業”経営者育成研修

“ひろしま活力農業”経営者育成事業では、新規就農パッケージとして、①栽培技術の習得②就農地の確保③就農施設（パイプハウス等）の整備④就農後のサポートを広島市が関係機関と連携して行っており、農業未経験者でもスムーズに就農できる体制を整えています。

経営費で大きなウェイトを占めるパイプハウス等の就農施設は、台風等でも安心なしっかりした規格のものを広島市等の補助金を活用し当センターが整備します。

その後、研修修了生に定額（100万円/年）で賃借（15年間）しますので、経営費が大幅に削減できます。

また、研修では、こまつな等の施設葉物野菜のほか果菜類等の栽培技術や肥料・農薬などの知識、農業簿記等、就農に必要な基礎知識を身に付けることができます。



研修スケジュール

区分	令和8年度	令和9年度	令和10年度以降
研修生	基礎研修 (11か月間)	実践研修 (1年間)	令和10年3月1日～ 就農
就農地	整備	実践研修で使用 (当センターが管理)	研修修了生が賃借 (農地中間管理機構から転借)
就農施設	整備	実践研修で使用 (当センターが管理)	研修修了生が賃借 (当センターから賃借)

支援制度について

円滑な新規就農に向け、以下の補助金等の支援制度が利用できます。（補助金等の交付には条件があります。）
詳細についてはお問い合わせ下さい。

研修 期間中	- 研修修了後に独立就農すること等を条件に研修を後押しする150万円/年の資金の交付を受けることが可能です。（新規就農者育成総合対策のうち就農準備資金） - 実践研修期間の収穫物は研修生の自由販売物としていますので、その売上金は研修期間中の経費や資金として活用できます。 - 研修中に「青年等就農計画」の作成を行い、市へ申請しますので、認定新規就農者になれます。
新規 就農後	- 農業経営が安定するまでの最長3年間、150万円/年の資金の交付を受けることが可能です。（新規就農者育成総合対策のうち経営開始資金） - 就農後の経営発展のために必要となる機械・施設に対する補助(補助上限あり)を受けることが可能です。（新規就農者育成総合対策のうち経営発展支援事業）

就農5年後の経営モデル

労働力：本人（2,000時間/年）、雇用労働力2人（1,860時間/年）

施設装備：パイプハウス30a（3,000㎡）、かん水施設、調整棟、保冷库
(当センターが1,000,000円/年・15年間で賃貸)

機械装備：トラクター、軽トラ、管理機、運搬車、動力噴霧器、袋詰め機等

生産規模：210a（30a×7回転）/年、生産量42t/年

年間売上：12,999,000円

(広島中央卸売市場広島県産こまつなの過去5年平均単価61.9円/束)

年間経費：9,210,737円

年間所得：3,788,263円



B 広島市農業振興センター農業研修

この研修では、定年後のセカンドライフとしての就農・帰農や農業をしながら田舎暮らしを楽しみたい方、半農半Xなど年齢を問わず目指すライフスタイル等に応じて2つのコースから選択できます。

農地をお持ちの方はもちろん、農地をお持ちでない方でもこの研修を受けていただくことができ、農地をお持ちでない方には募集対象市町の中で農地のあっせんを行っています。

① 生産販売農家育成コース

研修内容

- ・約40品目の野菜栽培に関する講義と実習
生産計画、は種・栽培管理、土壌管理、農機具の取扱い、鳥獣被害対策等
- ・出荷・販売技術に関する講義と実習
出荷調整、農業簿記、食品衛生、模擬販売等
- ・農産物直売所や生産販売農家の視察等

② 栽培技術基礎コース

研修内容

- ・野菜栽培に関する講義と実習
は種・栽培管理、土壌管理、農機具の取扱い、鳥獣被害対策等
- ・出荷・販売技術に関する講義と実習
出荷調整、模擬販売等
- ・農産物直売所の視察等



申込方法

提出書類	申込書1通 ・各研修コースの申込書に必要事項をご記入下さい。 ・申込書に写真を貼って下さい。（写真はタテ4cm×ヨコ3cm、最近3か月以内に撮影した正面向き、脱帽、上半身のもので、眼鏡を使用している人は眼鏡をかけたもの） ・申込書は、選考審査の対象や応募要件等の確認を行いますので、事実を丁寧に記入して下さい。
申込書の入手方法	当センター農業担い手育成課のほか、広島市役所、各区役所、出張所、連携市町の市役所及び町役場等に設置しています。 また、当センターホームページ（ http://www.haff.city.hiroshima.jp/index.php ）からもダウンロード可能です。
提出先	〒739-1751 広島市安佐北区深川八丁目30番12号 公益財団法人広島市農林水産振興センター 農業担い手育成課
受付期間	令和7年9月1日（月）～11月28日（金）（必着） ※B 広島市農業振興センター農業研修は、応募者が定員に達しなかった場合、令和8年2月27日（金）を期限として募集人数に達するまで追加募集を行います。

表紙のひと

永木 聡さん（36）

永木さんは、令和4年度に“ひろしま活力農業”経営者育成研修を修了し、広島市安芸区阿戸町に就農しました。

就農後、阿戸町という「町」の魅力に圧倒されたという永木さん。

農業を阿戸町の産業の柱の一つにすることで、町の活性化を図ることを目標とし、高齢化によって耕作することが難しくなった近隣の農地を借受け、ブロッコリーやいちじくなど様々な品目にもチャレンジしています。

農業の可能性について語る永木さんはとても生き生きとしていました。



農場の看板犬デ・ラ・ロッチャと